,留学レポート２　2026.11.13
L235027 法文学部社会文化学科
塩谷あき

引き続きサンパウロ大学に留学しています。

◯大学
　勉強している。私は文系である。文章と向き合う日々である。３ヶ月が経過し、論文の中で出てくる単語も授業で使われる単語も、大体わかるようになった。しかし文の構成への慣れがまだまだ足りず、理解に時間がかかる。私の自由は、表現は、かなり言葉に頼っている、と思う。思うように話して伝えられないことは息ができないように苦しい。
　一方で、ヨーロッパ言語で哲学的な文章を読む面白さにも気づいた。西洋概念は西洋言語で読んだほうが理解しやすい気がする。
　あと二週間ほどで期末試験があるので準備をしている。現代人類学は、いままでの必読テキスト（14 個！ある）の中から質問が出され、その質問に対して二人一組で答えを記述する。（持ち込みなし笑笑）先住民民族誌は今まで取り上げた著者の中から２人選んでその主張を組み合わせて５ページレポートを書く（ブラジル人の生徒は 3 人取り上げなければならない)。黒人運動史の授業は自分たちでテーマを選んでレポートを書く。
　この他にも学期を通じてグループでプレゼンをしたり（わしはほぼなにもしていないけれど)、定期的にレポートを提出する必要があった。
　否応なく文章を読まされ、授業を聞き、レポートを書き、言葉のハンデは果てしなく大きいけれど、すこしずつ成長しているなと思う。環境に感謝。

◯仲間たち
　日本人の留学生は今期は大阪大、神田外国語大、愛知県立大、京都大から来ている。私は普段語学系の、国際的に活躍、するような人々と出会わないので新鮮である。ブラジルに駐在している方達と食事をする機会もある。留学生たちは皆就活をがんばろうとしていてえらい。
　サンパウロ大の学生はみな頭がいい、というか、よく勉強するなあと思う。インターンや教育実習、何かしらのプロジェクトに参加している割合がめちゃくちゃ高い。皆教師や研究者としてのキャリアを考えて行動している気がする。ただ、留学を除くと、サンパウロやブラジルを出たことがない人が多い。ブラジルが広すぎるかもしれない。



なんやかんやソフトボールも続けている。今日撮れたての写真。

◯選挙

10 月は選挙があった！10 月 4 日に第一回大統領選と議会選挙、10 月 25 日に大統領選の決戦投票があった。大統領は現職左派ルーラが勝ち、議会は下院も上院も右派が優勢となった。

大学はもう、ルーラ、ルーラ、ルーラだった（特に、文学部にいるため顕著だったと思う）。第一回投票でボルソナロ（前職ボルソナロの息子ボルソナロ、父は軟禁中）に４ポイント差で負けてから、一気に選挙活動が盛り上がった。授業を早めに切りあげたり、なくなったり、学生はもちろん教授たちも積極的に活動に参加していた。

週末にはデモが行われた。ほぼ普段の festa（パーティ）で、音楽がかけられてみな踊ったり叫んだりしていて楽しそうだった。丸いシールを服に貼るのがお決まりのようで、大量に配られ街中の至る所でルーラの顔を見た。勝ってみな嬉しそうだった。もし負けていたら、おそらく次の日は授業がなかっただろう。

印象的だったのは、日本人留学生たちがルーラ、と叫んでいたことだ。普段日本の政治も国際政治の話もしない子たちがブラジル人の友だちとデモに参加して左派を応援していた。あとから、支持してないけどねと笑っていた。

文化人類学専攻のブラジル人の友だちは先住民の権利、先住民保護区の問題をよく話していたし、黒人の子は黒人差別や格差のことをインスタグラムでたくさん、ほんとうにたくさんあげていた。一方で、９月に行った南部の州の人々はボルソナロを支持していて、わたしのインスタグラムはカオスだった。

ブラジルの力強いエネルギーを感じた選挙期間だった。プロモーションがないと勝たないし、でもプロモーションと人びとの思いがあれば勝つのだ。それが「政治」なのかはわからないけれど。

フランスの学生デモもアメリカの中間選挙も、高市首相の発言も、今私が生きている世界にある。私は私がするべきことをしたい。



―デモの会場にて。フェスだと思う。たくさんルーラグッズが売っている。

◯旅

10 月後半は結構旅しました。

①ベロリゾンチ　10 月 22,23

　ミナスジェライス州（サンパウロ州の北に位置する州）の首都、バスで 8 時間。ミナスジェライス州立大学の社会学の教授を訪ねて。彼女は日本語ができるため、ブラジル社会のことを詳しく深く聞くことができた。夜ごはんもお家で一緒に食べた。ブラジルでは珍しい柴犬を飼っていた。

　公園の噴水で全裸で身体を洗っているおじさんと、道で火を熾して煮炊きをしているおじさんがいた。片道 3000 円くらい。



―ミナスジェライス州立大学、casa marx という学生団体。





―右・ベロリゾンチには大きい市場がある。めっちゃ鳥売ってた。

　左・めちゃ広かったけどあまり写真取らず。チーズ、ハチミツ、パチンコ、角笛、長いヘチマなどなど

②ブラジリア 10 月 24

ブラジルの首都ですね。USP の festa(パーティ)で会って友だちになった子に会いにいった。中学校の教科書で見ていた計画都市を実際に歩けて興奮した。かなり北に位置するので暑くて洗濯物がすぐ乾くのが最高だった。帰りのバスにうまく乗れなくて、新しく買ったりした。サンパウロから 22 時間かかります。片道 9000 円くらい。





—左・人種的平等庁、女性庁、先住民庁の前のわし

右・夜はブラジル北東部のクスクスを作ってくれた。ブラジリアは北東部に近い。




たくさん案内してくれた 2 人。このあと投票に行った。

③リオデジャネイロ 10 月 28,29

今最も有名な人類学者の一人であろうヴィヴェイロスデカストロ氏に会いに行った。2 時間半くらい話し込み、服にサインをもらった。次の日は Uber（配車サービス）の車の中にケータイを忘れて身体が震えた。Mac を手に持ちながら汗だくでリオを走り回った。1 時間くらいで再会できた、Uber の運転手が優しかった（まじでよかった)。帰りのバスが謎渋滞で 5 時間遅れて 10 時間かかった。一生忘れなそう。片道 5000 円くらい。



光栄。馬の研究、おもしろいね、とおっしゃってくれた。がんばりたい。

④イチンガ　10 月 31~11 月 7

ミナスジェライス州立大学の先生に農場兼レストランを紹介していただき、一週間滞在した。すごく田舎だった。搾乳、チーズ、豚の屠殺、市場、壁画、乗馬、土地の有力者、レストラン従業員、ディープブラジル、蟻を食べたり、ナマズ食ったり、羊農場見に行ったり。食中毒になったりした。受け入れてくれた家族は皆いい人で、愛が強くて、でも、同時に田舎の構造というか、土地をどのくらい持っているか、どの家の出身か、がとても重要視されていた。強い日差しと白い壁、牛皮と料理の匂い、私は皿とコップをずっと洗っていた。バスで 24 時間、片道 12000 円くらい。バイーア州とミナスジェライス州の州境近く。




―左・モケカという魚料理。ナマズ。ミナスジェライスではチーズを入れるらしい。
右・タナジューラという蟻。炒めてくれた。このあたりはなにもないから何でも食べたんだよ、と話してくれた。




―左・チーズを作る。モッツアレラのように作っていた。もともとイタリア系の移民らしく、関係があるかもしれないし、ないかもしれない。レンネットは買っていたが菌をホエイで継いでいた。
右・豚を解体するところ。屠るのは銃だった。品種をかけ合わせて作っているらしい。

知っている土地が増えるほど、それぞれの特徴が見えてくる。
大学で勉強して、旅してその土地の人に会う。日本でしていることとなにも変わらないと思う。
残り一ヶ月、どちらもできる限りやってみたい。あと、財布とパスポートとスマホと命を守りたい。

